

第三節 米軍の「ローテ」上陸と終戦迄の鐵道作戰指導

一 本期に於ける鐵道作戰一般の経過

昭和十九年十月米軍は遂に「ローテ」島に上陸 續いて 昭和二十年 月には呂宋島

二月は硫黄島 三月は沖繩 へと戦局は加速度的に進展して行った。

かくて大和民族の興亡を決す一戦 本土決戦は進展する戦局の重圧と逐次

激化する空襲の下 三看と進下漸 なる。八月 廣島及び長崎に對する原子爆

彈の投下 遂に蘇聯の参戦を以て大槓として 八月十五日 終戦となった。

此の様な戦局の推移に即應して 大本營の鐵道作戰指導は「内地鐵道

決戦態勢の確立と「日満支一貫輸送力」の増強確保の二大施策を  
超重点として進めよ。

即ち此の作戰以來の船舶の消耗と本土近辺の海上不安の増大は本土決戦

準備の強化と相俟つて、その返逐に強化せられた大陸特種輸送に日最後の効力

を要せしむるに至り、昭和十九年十一月月中旬大本営は大陸鐵道一貫輸送

の強化を企圖して大陸鐵道隊の編成を令し大陸特に滿洲朝鮮に

於ける鐵道部隊と劃期的に増強し且大陸特種輸送と大陸鐵道

司令官を以て管掌せしむるに處置する所あり。次々支那鐵道に

対する軍管理、満鮮鉄道に対する軍事使用の旨を勅令を以て動此  
 等大陸鉄道と名実共に軍用として大陸特種輸送の定途に最後  
 の努力を續けた。此の間内地鐵道は鐵道部隊の増強を屬し  
 鐵道空対策の強化、鐵道至戦力戰鬥隊の編成等逐次作戰準備  
 備を進め特に空襲下<sup>（下はける）</sup>本土決戦準備の第一段階として九州戰備  
 強化の爲の集中（展開）輸送等其成果見出しものかあるが平時  
 準備の不足は根本的改善と行ふに至る作戦的の見地満支  
 状態はなまなました。

此の間、南方に於てはインパール作戦の失敗以来、敵の圧迫を受け、漸次  
其戦面を収縮し、更に島嶼作戦の失敗から南方内地の交通を完全に  
遮断せしむに至る。南方軍は自戦自活の孤立作戦に移行せよの決心を得  
ない結果となつた。支那に於ても支那派遣軍は一時桂林柳州独山迄  
占領した。米軍の中南支沿岸に上陸を予想するに至り、昭和三十年  
二月頃より逐次其作戦の重点を中南支沿岸、特に揚子江下流地域  
へと轉換して行つた。一方滿洲は対蘇持久の方針を以て専ら島嶼作戦  
の対米決戦に専與せよとばかりの昭和二十年五月沖繩失陥以降の

蘇聯の動向に鑑み 滿洲防衛の作戰準備 満たされたが 蘇聯が先と  
共に大なる戦斗を交ふ事無く 終戦を迎へた。

此の様になり 大陸南方の作戰は極めて大なる変化を見之に伴ふ 鐵  
道作戰も亦困難を極めたが 此の期に及んで 大本營は既に人的物的  
に大なる支援を 仰ぐ事が出来ず 概ね一切を 喪失せしめ 各方面總軍  
の指導に 任ずるに至つた。

内地鐵道

サイパンの失陥以來 本土決戦の 避くべからざるを 予察した 大本營は先づ内

地鐵道隊を増強すると共に運輸者に対し其決戦態勢の確立を要洽とし本土決戦に應ずべき鐵道作戰準備の第一歩を踏み出さる。

比島沖鰐に利あふ軍は昭和三年五月頃より本格的決戦準備に

入るべき大本營の鐵道作戰指導の方針は「鐵道は大本營統轄

の下軍事輸送は内地鐵道隊を以て處理せしめ鐵道の管理運営は

運輸者の担任とし軍は全面的に之を支援する」とあるにあり逐次増

強した内地鐵道隊を以て日に激化するB29の空襲に對し鐵道

防衛を強力に指導す支援の行を。

備<sup>糸</sup>一激化する空爆と一旦本土に於ける決戦生起の場合に於く果  
 して此の程度の考へ方が鐵道の確保が可能かどうかは常に危惧  
 ナルを事ご之に對して大本營は「状況によるは運輸者と全面的に軍  
 糧<sup>糧</sup>とし大本營の直接指揮下に於らしめ又は方面軍の指揮又は區處  
 に於らしむべき腹案が進行を進めんとす。此の考へ方は鐵道<sup>先づ</sup>に我國力  
 戦<sup>レ</sup>部隊の編成となり八月日に其編成可<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>察<sup>レ</sup>するに至つたが且以後の活  
 躍<sup>躍</sup>を見る終戦となる。

I内地鐵道部隊の増強

昭和九年七月 以降内地鐵道司令部 放導鐵道團 鐵道大隊 を編成

統合して本土決戦に應ずべき鐵道隊として其の 歩を踏み出させ

大本營は其後逐次其等の内容を整へると 昔昭和三十二年三月には内地鐵

道司令部を編成を劃期的に強化し従来の支隊を改編して地区鐵道

司令部とし鐵道部隊の運用に遺憾なきをためた。

次いで四月には鐵道第二隊隊を滿洲や九州地区に轉用し六月

に入つて独立鐵道作業隊の編成に着手し逐次終戦に至る迄 四下隊

の編成を續行した。その終戦後に於ける内地鐵道兵力は左の通

りであつた。

左記

内地 鉄道司令部 一

地区 鉄道司令部 一

教導 鉄道司令部 一

鐵道 監理 三

陸軍 鐵道 大隊 八

独立 鐵道 作業隊 四〇 (内一六は編成中)

陸軍

正内地鐵道決戦態勢の整備

前述の様に戦局の進展に伴って大手管内は逐次内地鐵道の決戦態

勢確立と運輸者へ要望して居るが昭和二十年二月鐵道總局は

自ら

鐵道決戦態勢を施行し全従業員に階級を附し服務規律

の嚴密を要し決戦施策の劃期的促進へ其の歩を進めた。

併しこの施策も軍の必要と遠く減に徹温的なものと為

へたよを得た。

丁度昭和二十年一春迄も本工沃戰準備。一施策を以て全国民を国土防衛

の戰鬥員と<sup>しめ</sup>んとす。国民義勇戰鬥隊の編成に研究を以てたか。鐵道初階

に之を採用せんとす。大本營の方針と鐵道總局の希望とは同義まし

一致し其後兩者一體となす。研究を経て本法令の施行に伴ひ八月一日全

國に對して鐵道義勇戰鬥隊の結成を見るに至つた。

鐵道義勇戰鬥隊は運輸省鐵道部門に私鉄、自動車、其他の川

運送隊(義)等を加へ之を一丸とする。大組織が甚だ躍進の期待を以てたか

終に其成果を見せしめて決戦に當つた。

編制の要は左通りである

左記

鐵道總局長官

鐵道三我勇隊平一員

鐵道總局

鐵道一我勇隊平一員

各鐵道局

聯合鐵道三我勇隊

各管理部

(及之に准て)

鐵道三我勇隊

現場補佐

夫々其規模に應じ

鐵道三我勇隊

鐵道三我勇隊

鐵道軍兵勇戰鬥分隊

三大陸鐵道

I 大陸鐵道隊の編成

本土決戰準備のため大陸方面より内地に対する兵力及物資の輸送は對

蘇作戰の場合には之反對な逆集中となる形を採り空襲の脅威愈々

加はる中に如何にも大陸鐵道の一貫輸送路を確保するが爲大本營の

重大な課題となつた。ここに於て昭和十九年十二月中旬大本營は大陸鐵

道一貫輸送能力の強化を企圖し、従來の關東軍野峯鐵道隊の

編成と解き新に編成した鐵道部隊を加へて関東軍の編成中

に大陸鐵道隊を編成した。そして昭和三年三月には更に鐵道

部隊を増強し之を整へ備へし其内容を充實した。

其編成の概要は左記の通りである。

大陸鐵道隊編成(概要)

司令官 大陸鐵道司令官 草場辰巳

大陸鐵道司令部

関東軍鐵道隊

陸  
軍

第三鐵道監部

鐵道取除 二

特設鐵道隊 二

鐵道材料廠 一

朝鮮鐵道隊

第五鐵道監部

鐵道大隊 六

鐵道材料廠 一

停車場司令部 若干

五輪部隊

鐵道隊 =

陸軍鐵道大隊 五

停車場司令部 若干

裝甲列車隊 =

かくて従来から全く鐵道隊を持たなかつた朝鮮にも鐵道大隊が配備される

大陸の重要部分なる朝鮮役道の確保に一大威力を

加へるゝある。

この大陸鐵道線の編成と共に、深總長は鮮満支に於ける鐵道隊の相互通用に關して御朱仕を受け、大陸鐵道司令官にも亦

鮮満支一貫輸送に關して支那に於ける鐵道部隊と對する区處

次で行はれる支那鐵道の監督管理鮮満鐵道に對する軍事運用に關する勅令の及動と相俟

権を附與する鮮満支一貫輸送力確保の態勢はここに確立

ありしに於て。

大本營直轄の下に

もつて單に鮮満支一貫輸送の見地からは、眞に鐵道管理秩序

と統合し、軍事鐵道様式と單系統に改編し更に進へたは之等

を打つて一丸とする新組織を完成する事こそ理想的であり若干  
の研六九の試みはたの 朝鮮 満洲 支那 其統治主権を異  
にし 朝鮮軍 自軍 支那派軍 と作戦上の要  
素を異にする當分の情及に於てはこの程度こそ可能にして取大  
限の安んずる見込みあり。

II 朝鮮 鐵道の複線化促進

鮮滿支連絡幹線たる 京釜、京義、安奉、奉山、京山の諸線に  
對しては早くから其複線化の企圖され 京釜、京義、奉山等の諸線が

既に複線化する加之大陸特急輸送の要請は日々増大するに拘

はる言義線のみは昭和十九年一上年期を過すも完成しなかつた。

其なる理由は次是材の不足にあるが大本營は滿洲外戦遂行の爲

用大石橋以南の運京線の撤去等<sup>特用</sup>總ゆる効力を拂ふ之を復進

した。満鐵としては情勢の变化とはまゝ自ら及祥の線路を撤去

する事は誠に遺憾無きなるもあると思はれる。

こうして案を我々は昭和三十年二月複線工事を完成(一部)

橋脚を除く)まづ之最後の大陸特急輸送に寄與する事の出来た。

67

正大陸鐵道の軍管理並軍事使用

對蘇作戰準備のため昭和十七年六月公布される滿洲朝鮮

樺太(台湾)鐵道に對する軍事使用に關する勅令は戰局推移

の變化によつて其後及反動すべき機會のなかつた。

然るに支那特に北支の鐵道の確實と立派な施設等の激化に

よつて振作的対策を要するに至つたのと大陸船舶輸送の且取返の努力

方を要請されるやうになり大本營は昭和二十年一月當時の教導鐵

道團長加藤定少將を長とし大本營其他關係各省の主任者

を以て編成して大陸鐵道視察班を派遣し、<sup>具</sup>現地に視察

させ、其報告を基に、昭和三年三月支那鐵道を軍管理

とし、同時に

鮮滿鐵道に對して軍事使用に因る利令を

及ぼした。

こうして大陸鐵道、特に支那鐵道は名実共に軍權の及ぶところとなり、

及ぶべきである。其後の成果は劃期的に、興行り大陸特種輸送を完成し

て支那鐵道と其支那支隊の確保を確保した。

及朝鮮

滿洲鐵道の軍管理に因るものは、支那鐵道に於ける軍管理の成

果に鑑み且最後の決戦態勢整備を期し之五月頃具體的研究  
に入つたが現地軍の意見一致せず又前記勅令の及ぶ動による大却  
の實質的効果を取れ居たため之を強化する必要を認めず實現  
を見よと呈するが所也。

#### IV大陸轉嫁輸送の強化

（要請が）

戦局の進展に於て大陸轉嫁輸送の企劃を強化せしむる事は前述の通り  
あるに及ばず。輸送物件の内容は軍用軍需品のみならず一般物資  
が其大半を占め居るためこの輸送の計畫は実行に當りては關係する所極めて

多方面に亘り複雑な處理を必要とする。隨つて明かに軍事輸送がないこゝろ大  
 半の輸送も大本營の統制と責任に於て是行せねばならぬ結果となり大本營の  
 輸送事務者の苦心は減らなみならずぬものがある。それと拘はる現地様  
 と一には其輸送物件の内容と責任の所在明確を缺き能率及揮に遺  
 憾の甚かしくなるがえ。此處に於て大本營は大陸鐵道隊の能率を教へる  
 に伴ふ大陸野戦輸送を眞に軍の責任に於て強力に推進しやうと企  
 圖し昭和二十一年三月以降大陸鐵道司令部と一之を管掌せしめ軍  
 事輸送に準じし之を實施せしむる處置した。

斯く大陸物嫁輸送は前述した朝鮮鐵道の複綫化其他各種の諸

茲に大陸鐵道存続の専断なる努力と

施策相俟て劃期的成果を擧げ、以來強て計画通り之を定家

て本土決戦に寄與す所偉大なるものあり。次いで米軍の沖縄

軍攻に伴ひ朝鮮海峽は極度に危険となり輸送の重要は北鮮に

在り大陸より北鮮、日本海經由、直に日本への経路をとるやうにな

つた。此の爲船舶輸送力の関係から全般輸送量は漸次減つた

が終戦迄続いた。

此に本土決戦に突入りやうとした祖国に対する餓とて海に

この大陸物嫁輸送こそ大陸鐵道が軍鐵一体となつて行くを掉尾の奴力

であり大陸鐵道最後の偉業として、<sup>永</sup>鐵道史に特筆すべきもの  
あり。

支那に於ける作戰方針の變換に伴ふ鐵道作戰

前述の様には支那派遣軍は昭和三年二月頃以降従来の對重慶

作戰を對米作戰へと變換した。鐵道も亦之に伴ふ従来の湘桂作

戦の運用から全線鐵道部隊の大部を除く江南の津浦線及

海南線に専用として對米決戦へ即應する態勢を整へた。

大本營は、支那派遣軍の意見具申によつて支那派遣軍鐵

道隊の編組を改め新に中支那鐵道隊を編成し此の作戰遂行  
に遺憾なかりめたる。

### ソ蘇聯參戰と鮮滿鐵道

昭和二十年八月九日突如として行はれた蘇聯の參戰に對して鮮滿鐵道  
は何等直接的準備無くして之を迎へたる。

事此處に至つて既に鐵道作戰指導の何物をも行ひ得なかつた大本營  
は一切を現地軍に委すの外無く僅かに<sup>其</sup>鐵道を市僚一を増加參謀  
として新編に派遣して閩東軍の警備を補佐せしむるやう處置を講

「これが此は大陸鐵道に對する大本營として最後の禮儀であつた。

### 四南方鐵道

南方防衛作戰が逐次激化するに於て、大本營は南方に於ける軍事鐵道

機關・鐵道隊、鐵道管理機關を打つて、丸とよ鐵道隊の編成に

之の運用、機關・鐵道隊の確立に關して指導を續け、行方か比島山作戰の失

敗から南方との交通完全に遮断し、尔後人的物的に何等の補給援助

を為し得ない状態となつた為、昭和十九年末、其一切の運用を南方軍

總司令官に任せ、終つた。

一方南支に於ける作戦の成功によつて南方軍としてほ「海上ルート」の海  
断に伴ひ唯一の連絡路を陸上に求めんとし、南支、佛印と結ぶ連接  
鐵道の建設を執望する所があるが大本營は一般の情勢かと次是材の同俾  
之を許さざるとして其企圖を断念させた。事ここに至つて南方鐵道  
は作戦方針に即應して其重要を暴及泰緬連接鐵道（甸）並此  
等周辺の鐵道に本質 更に局地輸送力と化して船舶との綜合  
運用に適應なかりたるため鐵道船舶を綜合して南方區一支  
通隊を編成 逐次戦局の變請に對處した

五、鐵道部隊

大東亞戰爭當初僅かに

野牙鐵道司令部 二

鐵道輸送司令部 三

鐵道監部 三

鐵道隊 六 (別二同補充隊 二)

特設鐵道隊 二

鐵道材料廠 三

陸軍

停車場司令部

若干

の兵力を以て之に臨人の国軍鐵道部爲に甘後因累次の増強に力する

既述を如き

鐵道(野鐵鐵道)司令部

五

鐵道輸送司令部

三

内一は比島に壊滅

鐵道監部

五

内一は放浪を鐵道司令部

鐵道隊

二〇

獨立鐵道大隊(之は建前を以て)

三三

特設鐵道隊

二

特設鐵道工務(橋梁)隊 二

鐵道作業隊 四〇(内一六は編成中)

鐵道材料廠 五

野戰鐵道廠 三

停車場司令部 七九(内甲三、乙四七)

裝甲列車 三

となり其總兵力約一〇万を越へ愈々激化する敵の決戰的爆撃

確保

の下に鐵道作戰の本格的段階に入らうとの図

も終戦を迎ったのであった。

本件に於ける国軍<sup>全</sup>鐵道部<sup>の</sup>指揮<sup>の</sup>隸属系統<sup>別紙</sup>第二<sup>の</sup>

通りであった。